

SAMPLE

特集レポート No. 113

新時代のキャリア構築
～営業と他企業のリスキリング事例～

Strictly Confidential



2024年3月5日

はじめに

- 日本の国際的な競争力の低下や業務効率化ニーズの高まり、また新技術の台頭といった外部環境の変化を背景に、国・企業・個人単位において、リスクリングのニーズが高まっている
- そのような状況において、目下リスクリングが行われている割合は14%程度に留まっており、また職種によって普及状況に差が出ている
- 本レポートでは、リスクリングの定義や必要とされている背景を確認した上で、足元の取り組み状況及び具体的に取り組まれている内容を言及した後、具体的なリスクリングの導入事例を紹介する

本資料の流れ

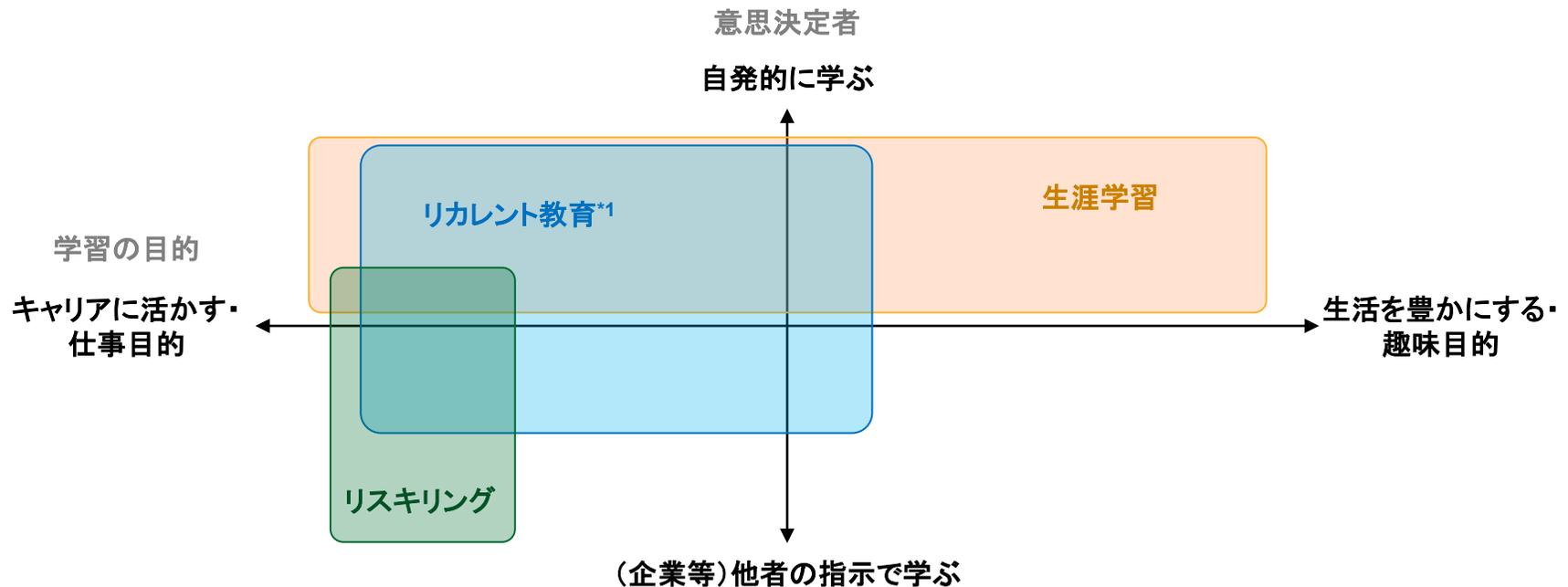


- I. リスキリングの定義と注目されている背景
- II. リスキリングの取り組み状況
- III. 用いられるツールとケーススタディ

リスキリングの定義

- リスキリングは、単なる学び直しではなく、キャリアにて更なる価値創出を続けるために必要なスキルを学ぶことを指す

<p>リスキリングの定義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること
------------------	---

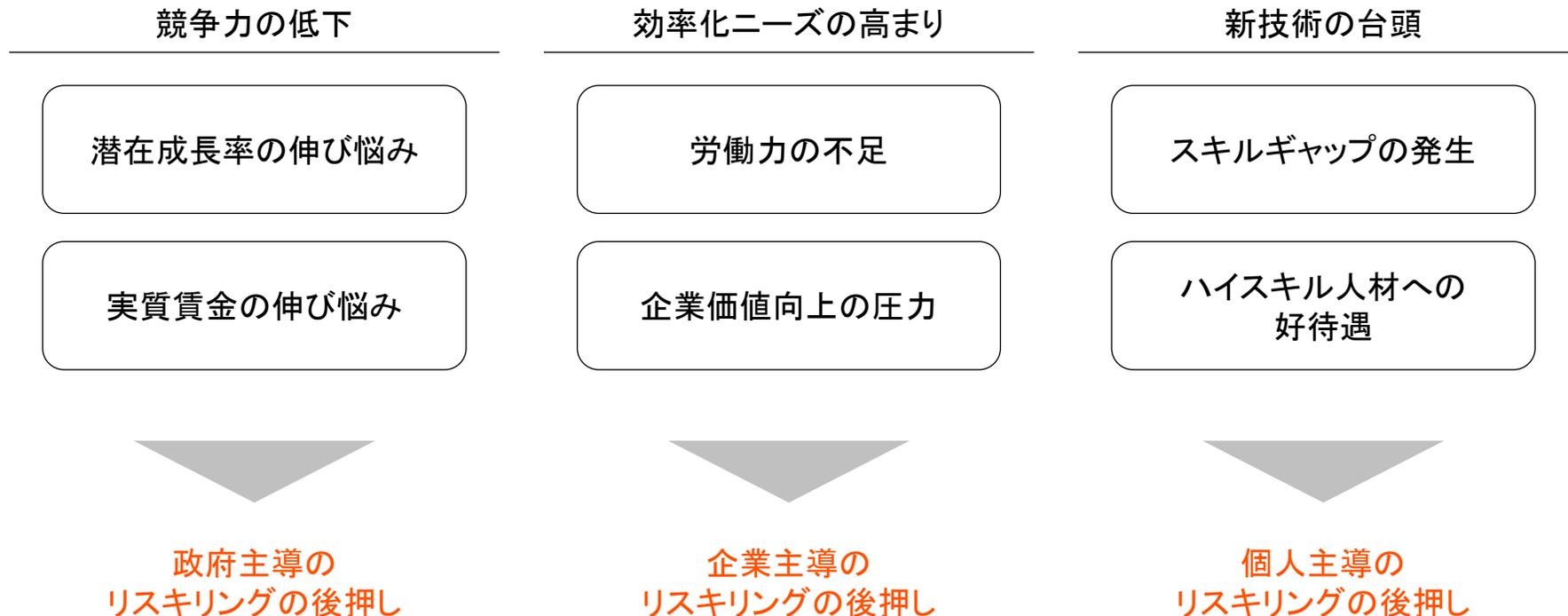


注: *1. リカレント教育は「働く→学ぶ→働く」のサイクルを回し続けるありようのことを指し、新しいことを学ぶために「職を離れる」ことが前提になっている

出所: 経済産業省「リスキリングとは—DX時代の人材戦略と世界の潮流—」

外部環境の変化によるリスクニングニーズの高まり

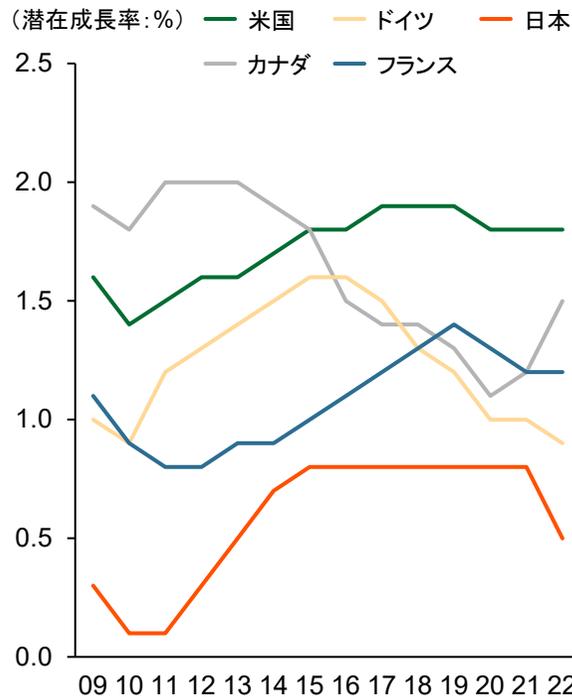
- 競争力の低下や新技術の台頭など外部環境の変化を受けて、リスクニングのニーズは高まっている



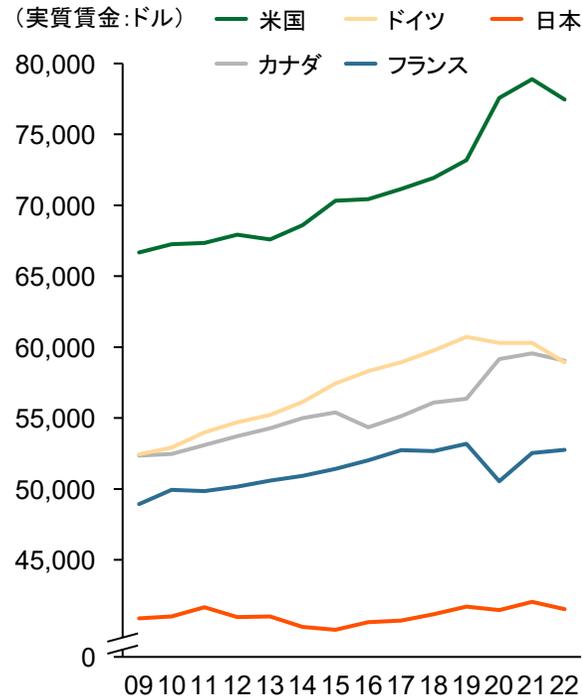
リスキリングが必要とされている背景① 一政府

- 近年、日本の成長率は他国と比較し伸び悩んでおり、政府主導による成長戦略の一つとしてリスキリングが挙げられている

潜在成長率*1の伸び悩み



実質賃金の伸び悩み



岸田首相による所信表明(抜粋)

- 構造的な賃上げ
 - 賃上げ
 - ・ 物価上昇に見合う賃上げの実現
 - 労働移動の円滑化
 - ・ 年功制の職能給から、日本に合った職務給への移行など、企業間、産業間での労働移動円滑化
 - 人への投資
 - ・ 個人のリスキリングに対する公的支援については、人への投資策を、「五年間で一兆円」のパッケージに拡充

— 第二十回国会における
岸田内閣総理大臣所信表明演説
2022年10月3日

主要国と比較し、潜在成長率及び実質賃金が伸び悩む

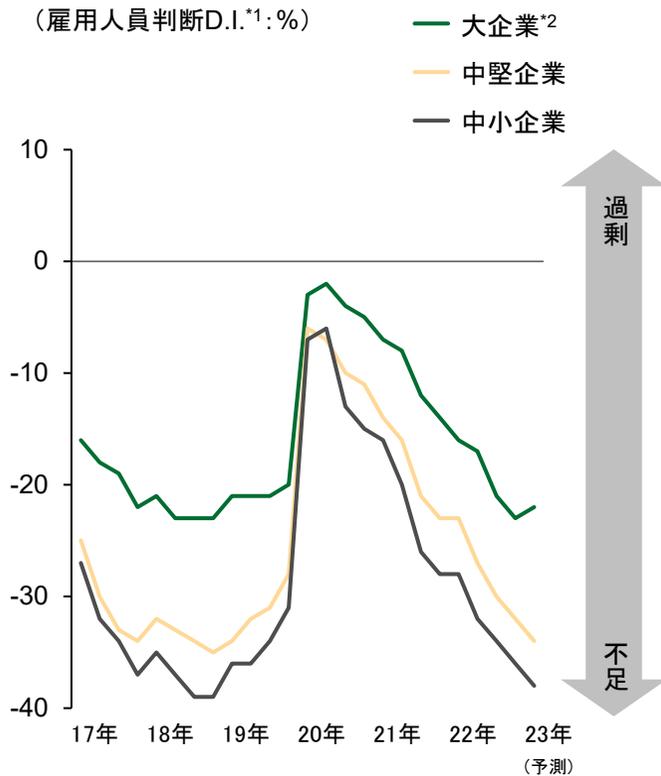
注: *1. 企業の生産活動に必要な資本ストックや労働力を過不足なく活用した場合に達成しうる経済成長率

出所: OECD「OECD Economic Outlook」、首相官邸「第二十回国会における岸田内閣総理大臣所信表明演説」

リスキングが必要とされている背景② 一企業

- 人手不足による業務効率化ニーズの高まりや、低PBR上場企業への改善要請を受け、企業におけるリスキングのニーズは高まっている

企業の人手不足の状況



慢性的な人手不足が継続

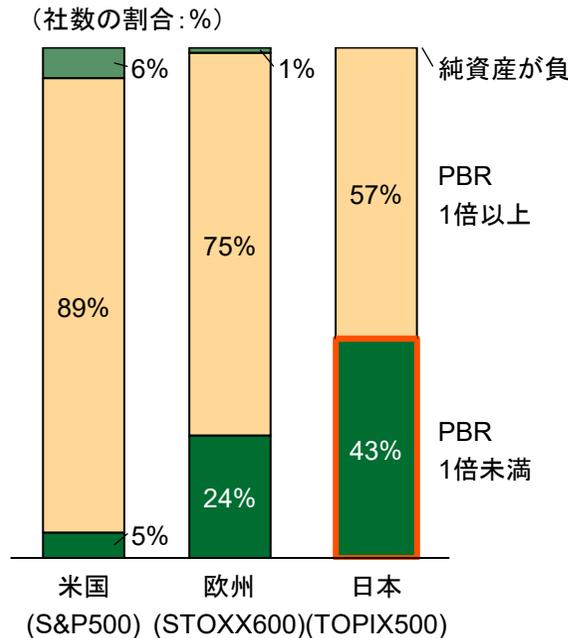
注: *1. 雇員判断D.I.は、「過剰」(回答社数構成比) - 「不足」(回答社数構成比)

*2. 大企業は資本金10億円以上、中堅企業は1億円以上10億円未満、中小企業は2千万円以上1億円未満の企業

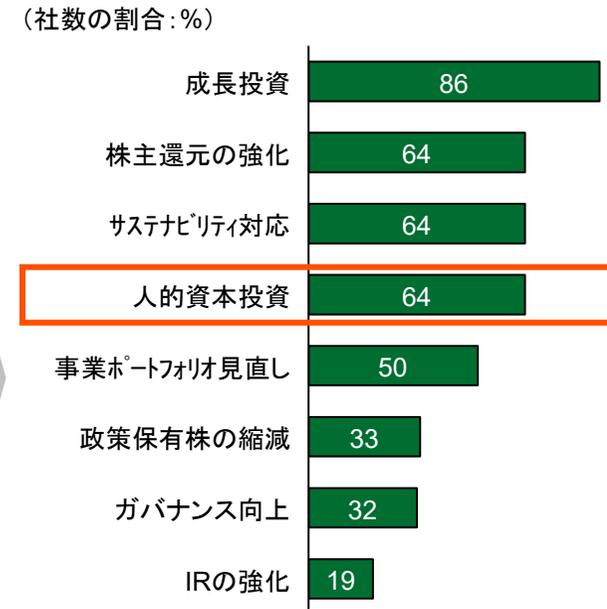
出所: 独立行政法人労働政策研究・研修機構「雇員判断D.I. (2023年4月12日更新)」、東京証券取引所「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する企業の対応状況とフォローアップ」

低PBR企業の企業価値向上に向けた取り組み

市場別PBRの比率(22年7月)



PBR1倍未満企業の改善に向けた取り組み内容(23年7月)



低PBR企業は「人的資本投資」を企業価値向上の中心的な取り組みの一つに据える

リスクリングが必要とされている背景③ 一個人

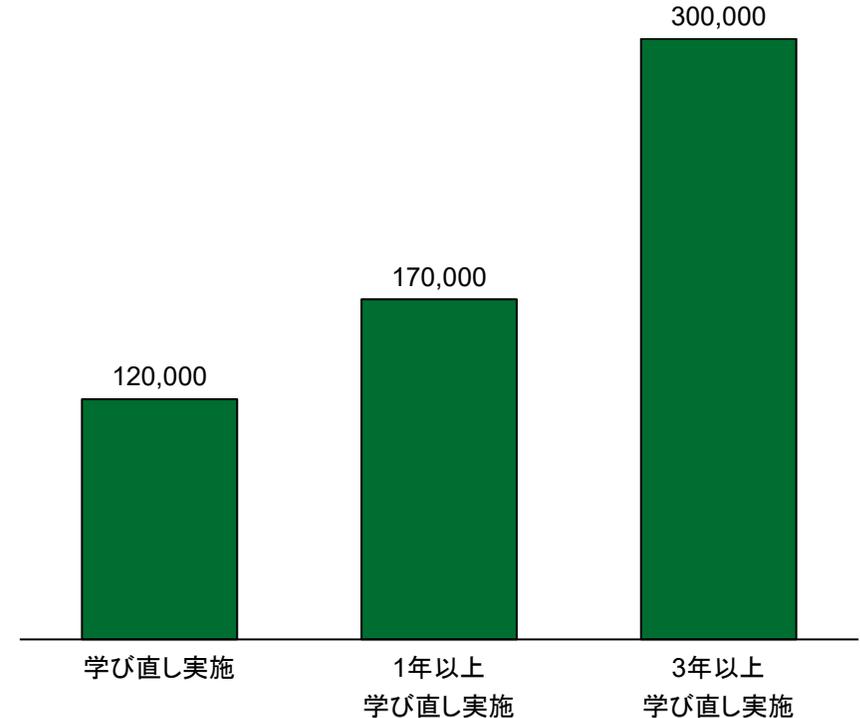
- 新技術の台頭によりスキルギャップが発生した危機感から、個人におけるリスクリングのニーズが発生
- また、リスクリングによる年収増加への期待が個人のリスクリング需要を後押し

2025年までにニーズが高まる・低くなる職種

順位	需要が高まる職種	需要が低くなる職種
1	データアナリスト・データサイエンティスト	データエントリークラーク
2	AI・マシンラーニング専門家	一般・役員秘書
3	ビッグデータ専門家	会計、簿記、給与計算
4	デジタルマーケティング&戦略専門家	会計士・監査
5	プロセスオートメーション専門家	組立・工場労働者
6	ビジネス開発プロフェッショナル	ビジネスサービス&オフィスマネージャー
7	デジタルトランスフォーメーション専門家	顧客情報・顧客サービス
8	情報セキュリティアナリスト	一般&運用マネージャー
9	ソフトウェア&アプリケーション・デベロッパ	メカニク&機械修理
10	インターネット・オブ・シングス専門家	記録&在庫管理

非リスクリング実施との年収差の推定*1

(年収差:円)



注: *1. 35歳~64歳の就業者が対象

出所: The World Economic Forum 「The Future of Jobs Report 2020」、内閣府「新しい資本主義実現会議」

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

